

## 大学の世界展開力強化事業（平成25年度採択）事後評価結果

大 学 名	立命館大学
整 理 番 号	7
事 業 名	国際PBLによるイノベータ育成プログラム

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b style="font-size: 2em;">A<sup>-</sup></b>	一部でやや不十分な点はあるものの、概ね事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
(コメント) <p>本プログラムは、相手大学の学士課程と連携を進め、PBL (Problem-Based Learning) を主とした教育プログラムにより政策課題・社会問題の解決に必要な思考ミックスの能力を有する人材を育成することを目的として実施されたものである。</p> <p>本プログラムが目指す人材育成は着実に行われており、プログラム1期生の追跡調査の結果、派遣学生のプログラム参加による学修効果が確認され、受入学生についても日本の先行事例を基に本国で課題解決に向けた提案を行う等の成果を挙げている。質の保証については、Exchange program evaluation report を作成し、単位互換、現地コーディネーターの役割及び教員サポート等について立命館大学及び相手大学の双方から評価が行われ、プログラムの質の向上及び改善に対して丁寧な取組が実施されている。また、派遣学生同士の情報共有や受入学生の生活支援、学生同士が互いに助け合うピア・サポート制度やホームビジット等による日本文化の理解を深める工夫が成されており、評価できる。運営面では、自己点検・評価を実施することで取組を改善・強化するとともに、客観性と妥当性を確保する学外者による検証など、全学的に教育の質を確保するために取り組んでいる。さらに、学業・研究に関する支援に加え、危機管理やキャリアガイダンス等の包括的な学生サポートについても評価できる。本プログラムでの取組で得られた成果を広く社会に共有していくことが期待される。</p> <p>一方で、事業目的の達成については一定の成果を挙げたと言えるが、その成果の評価については主観的なものに留まっている。今後は、教育手法として用いた PBL の効果や学生の意見を分析し、より明瞭な評価を実施することが望ましい。また、派遣・受入学生数のいずれもが目標数を下回っていることから、積極的な交流推進のための対応が求められる。</p> <p>最後に、本事業による補助期間は終了したが、引き続き質の保証を伴う発展的な事業展開によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与していくことが期待される。</p>	